

## UNFCCC SB-16 のハイライト

2002年6月5日水曜日

UNFCCC 補助機関の第 16 回セッション (SB-16) は、ドイツのボンで 6 月 5 日に開催された。科学・技術的助言に関する補助機関 (SBSTA) は、気候変動に関する政府間パネル (IPCC) の新議長による開催の挨拶と、プレゼンテーションで (セッションを) 開始した。その後、出席者は、組織上の問題や、IPCC 第三次評価報告書 (TAR)、そして付属書 I 締約国による温室効果ガス目録の報告およびレビューについてのガイドライン、第 5 条 (手法上の問題)、第 7 条 (情報の連絡)、第 8 条 (情報の検討) の下でのガイドラインおよび共同実施活動 (AIJ) についての統一報告様式を含めた手法上の問題など、多様な議題を取り上げた。夕方には、出席者は、5 条、7 条、8 条および AIJ を議論するコンタクトグループで会合した。

**SBSTA**

**プレナリーの開会：** SBSTA 議長の Halldor Thorgeirsson (アイスランド) は、出席者およびオブザーバーを歓迎し、作業の重点が議定書に関する交渉からその実施の問題に移ったことに注目した。UNFCCC エグゼクティブセクレタリーの Joke Waller-Hunter は、合計で 74 の締約国が議定書を批准しており、これは先進国の温室効果ガス排出合計量の 35.8% を代表すると述べた。

日本と EU は、それぞれの最近の批准に注意を促し、他の締約国もこれにならうようすすめた。ベネズエラは、G-77/中国を代表して、最近の議定書の焦点が一部の UNFCCC の課題、特に途上国に関する課題の無視を意味すると述べた。ロシア連邦は、議定書批准に関する国内議論が、今年の末には完了するはずであると述べた。

**組織上の問題：** 議題書 (FCCC/SBSTA/2002/1 および Add.1) に関し、Thorgeirsson 議長は、両補助機関の議題に議定書 2.3 条 (悪影響) についての問題を付け加えるようにとの要請を指摘した。EU は、決定書 5/CP.7 が 2.3 条を扱っていることを想起した。サウジアラビアは、議定書に関する決定書と UNFCCC の問題は別のものとする事で締約国が合意したと述べた。同代表 (サウジアラビア) は、G-77/中国と共に、この議題の挿入を支持したが、EU、日本、オーストラリアは、これに反対した。

クリーンな、または温室効果ガス排出の少ないエネルギーに関するカナダ案について、G-77/中国は、この議題が暫定議題書では、間違った言い方となっており、この問題に関するワークショップの報告書を参照するべきで、提案自体を参照するべきではないと述べた。カナダは、暫定議題書が正しく提案を参照していると述べ、この議題を暫定議題書の言葉どおりに保持することを主張し、いくつかの付属書 I 締約国とウズベキスタンがこれを支持したが、サウジアラビアと G-77/中国はこれに反対した。

締約国は、協議の末、クリーンなエネルギーおよび 2.3 条に関する議題を一時保留とするとの議長案で合意した。Thorgeirsson 議長は、これら議題に関してさらなる協議を重ね、その結果を来週報告すると述べた。SBSTA は、その上で、修正された議題書を採択した。

**IPCC 第三次評価報告書(TAR)：**IPCC の Rajendra K. Pachauri 議長は、締約国に対し、TAR に含まれる情報を十分に活用するよう求め、また第四次評価報告書の作業を 2003 年に開始し、2007 年に終了すると述べた。これに続く協議では、多くの締約国が、作業計画の必要性を強調した。サウジアラビアは、そのような計画は、途上国に関する気候変化の影響が推敲され、科学上の不確実性が最小にされるまで、作られるべきではないと述べた。締約国は、TAR 普及の重要性を強調し、また将来の計画は次のものに注目することを示唆した：科学上の不確実性、特に地域レベルでのそれを解消；適応および緩和措置の実施に対する障壁を明らかにする；観測システムの改善；IPCC 内での途上国出身科学者の参加促進、である。中国はサウジアラビアおよびアルジェリアと共に、気候変化についての歴史的責任と公平性問題についての追加作業の必要性を強調した。EU は、スイスおよびスロベニアとともに、TAR に含まれる情報が気候変化についての更なる行動を正当化していると述べ、締約国が IPCC に対し将来扱うよう希望する科学技術上の問題について検討することを、提案した。ノルウェーは、2012 年以後でのより強力な排出削減と、より広範囲な参加について合意する必要性を指摘し、SBSTA が約束強化のプロセスを始めるよう提案した。サウジアラビアは、与えられた科学的な不確実性からすると温室効果ガスの危険な水準は決定されないと述べた。オーストラリアは、TAR のフォロー議題を SBSTA の議題に定常的に載せるよう提案し、サウジアラビアはこれに反対した。スイスは、SBSTA の各議題項目で TAR を継続的に参照することは、別なプロセスを開始するよりも効率的であると論じた。

IPCC 事務局の Geoffrey Love エグゼクティブセクレタリーは、SBSTA と IPCC の協調を歓迎し、IPCC が作成することになる第四次評価報告書、特別報告書、技術報告書に留意するよう促した。Thorgeirsson 議長は、この問題について David Warrilow(英国) と Rawlestone Moore (バルバドス)が共同議長を務めるコンタクトグループが会合すると述べた。

**手法上の問題：議定書 5 条、7 条、8 条の下でのガイドライン：**付属書 I 締約国からの温室効果ガス目録の報告およびレビューに関するガイドライン(決定書 3/CP.5 と 6/CP.5 の実施)について、事務局から、技術的評価プロセスでの関連提案や経験についての概要(FCCC/SBSTA/2002/5; FCCC/SBSTA/2002/2; FCCC/SBSTA/2002/2/Add.1-3) が提出された。同代表は、レビュープロセスが、より完全で透明なガイドラインの確立を目指したものであると述べ、共通の報告様式(CRF)を通してのガイドラインの改善、報告書案の目的のより明確化、文献査読者の新しい概念の組み入れ、またレビュープロセスのタイミングと期間の長さを考慮すること、の必要性を強調した。

EUは、技術的な査読や年間目録について（人的、資金的？）資源を増やす必要があると強調した。米国は、特に統合および目録評価段階でのソフトウェア改善を支持した。Audun Rosland（ノルウェー）とNewton Paciornik（ブラジル）を議長とするコンタクトグループがこの問題を検討するため会合する予定である。

7条の下で要求される情報の作成と、8条の下でのレビューに関するガイドライン、そして5.2条（調整）のためのグッドプラクティスガイダンスについて、Thorgeirsson 議長は、COP-7の期間中ではガイドラインの一部の章で結論が出されていなかったことを指摘した。同議長は、割当量ならびに国内登録簿の報告やレビュー、そしてメカニズム利用資格の回復に関する速やかなレビューを含め、多様な問題が、SB-16に送られてきたことを述べた。COP-7はまた実証可能な進展のレビューの技術面や機密情報の扱いについてSB-16で取り上げを求めた。

Audun Rosland は、4月3-5日にアテネで開催された5.2条での調整に関するワークショップの結果を報告した。同氏は、参加者たちが調整を例外として用いるようすすめ、手続きは簡単なものでなければならないとしたことを述べた。同氏は、シミュレーション上の調整を評価し、レビューチーム間で調整が一貫して適用されることの確保を助けるため、第2回のワークショップを2003年初めに計画すると述べた。

有資格性回復の早期レビューに関し、EUは、通常のレビュープロセスや遵守手続きとも一致するプロセスである必要性を強調した。Thorgeirsson 議長は、Helen Plume（ニュージーランド）とFestus Luboyera（南アフリカ）のガイダンスのもとで、コンタクトグループが会合すると述べた。

7.4条の下での登録簿の技術基準に関し、Murray Ward（ニュージーランド）は、6月2-3日に行われた協議の結果を報告した。同氏は、割当量の計算を運用可能とし、透明性を与えるには、登録簿が必要であると述べた。同氏は、大半の付属書I諸国登録簿が、開発の初期の段階にあることを指摘し、出席者が、基準の特性と範囲を考察した上で、これら基準をデータや取引記録の交換に関係する分野に適用するべきと結論付けたと述べた。同氏は、技術基準案は、SB-17の前に作成されるべきであると述べた。Thorgeirsson 議長は、Murray Ward が非公式折衝を行うと述べた

**共同実施活動 (AIJ)：**Thorgeirsson 議長は、AIJのパイロットフェーズを継続するとのCOP-7での決定（決定書8/CP.7）、ならびに統一報告様式の改正案に関するワークショップを開催するとの決定（これは6月2-3日にボンで開催された(FCCC/SBSTA/2002/INF.9)に注意を促した。その上で参加者は、会合の報告書および、AIJパイロットフェーズについての締約国の経験に関する締約国からの提出書類のまとめ(FCCC/SBSTA/2002/MISC.2)を含むその他の関連文書について簡潔な報告を受けた。

いくつかの締約国が AIJ パイロットフェーズを支持し、また最近のワークショップを歓迎した。ケニヤは、G-77/中国を代表し、プロジェクトの地理的な分布が、特にアフリカに関して改善されるべきであると述べた。ウガンダは、不公平な分布が、アフリカでのプロジェクト経験のレベルに影響を及ぼし、このためアフリカの CDM 参加での能力にも影響を及ぼす可能性があるとして述べた。中国は、いかなる統一報告様式の修正も、すでに AIJ で行われている決定事項、特に資金や技術移転に関係する決定事項に影響を及ぼしてはならないと述べた。参加者は、6月13日のSBSTAでの検討に付される結論案そして可能ならば COP-8 決定書案を作成するためのコンタクトグループ 結成で合意した。

### コンタクトグループ

AIJ: AIJ パイロットフェーズでの統一報告様式(URF)に関するコンタクトグループは、Mamadou Honadia (ブルキナ・ファソ)と Sushma Gera (カナダ)を議長とする。このグループは、URF 修正案 (FCCC/SB/2000/6/Add.1)について、また最近の AIJ ワークショップで提案された修正案への変更について、考察した。出席者は、修正案のいくつかのセクションに関する数件の提案について合意したが、これには政府による受け入れ、承認または是認、そして国内開発優先度との一般的な適合性についての提案が含まれる。このグループは、議論を金曜日にも継続し、相互に合意されたレビュー手続き、AIJ プロジェクトの概要、追加コメントに関する未解決の文章変更案を考察する。

5 条、7 条、8 条: 事務局は、5 条、7 条、8 条に関係して SB-16 で扱うべき問題の概要を提出しており、これらには、割当量と国内登録簿の報告とレビューそしてメカニズム利用の資格回復の評価を含めた、7 条と 8 条のガイドラインにおける保留部分、5.2 条での調整、実証可能な進展、機密データの扱いがある。同氏は、関連する完成版の決定書草案が、採択のため COP-8 に送られると述べた。その上で事務局は、セッションについての書類を提出し、また Newton Paciornik は、技術ガイダンス案の作成と SB-17 後の第 2 回ワークショップの提案があった、5.2 条の調整に関するワークショップの結果を提出した。同氏は、調整についての保守的なアプローチをどう作成するかの問題は、さらなる議論をする価値があり、また調整のための手法の試験は、次のワークショップに先立ち、2000-2001 年の目録データに基づいて行われると述べた。タイミングについて、事務局は、今年度末に事例研究を行い、4 月に開催されるワークショップの前に締約国が研究に対するコメントをする時間的余裕を持たせるよう提案した。機密情報の扱いの問題について、締約国は、2002 年 8 月 1 日の各締約国の提出に続いて、SB-17 でさらに議論することを望んだ。事務局は、メカニズムの利用資格の回復に向けての評価に関するワーキングペーパーを配布し、会議は閉会した。

### 廊下にて

「目新しいことはない」と「いつもどおり」というのが、SB-16の開催日を形容するのに出席者が使ったフレーズであった。2000年と2001年の気候会議を特徴づける緊張と瀬戸際策の後で、SB-16の参加者は、今回もっとはるかに「控えめな」何かを期待していたのは明らかである。幾人かのオブザーバーは、まもなくのヨハネスブルグサミットに先立ちバリで行われている交渉の方に、しっかり注目がいっていたことを指摘していた。

しかし、ボンで期待された静かな雰囲気にもかかわらず、会議は、開催日にも緊張関係がなかったわけではなく、多くの参加者が、カナダとサウジアラビアが提起した二つの提案の不一致について議論した。カナダ案は対立を含むものであり、というのはその提案が、議定書の下でのさらなる柔軟性策で、自国のエネルギー輸出での利益を狙ったカナダの試みと一部のオブザーバーが、見ているからである。

議定書での悪影響を議論するサウジアラビア案は、悪影響に関するUNFCCCと議定書の条項は、別々に扱われるべきか、それとも共に扱われるべきかという、多くの出席者が再現を望まない長時間の議論の思い出を呼び起こすものである。

#### 今日の注目

**SBSTA**：SBSTAはLULUCF、技術移転、政策措置、関連国際機関との協力、UNFCCC6条、ハイドロフルオロカーボンおよびパーフルオロカーボンに関する問題、その他について議論するため、午前10時から午後3時まで会合する。

**非公式折衝**：非公式折衝は、一日を通して開催が予定されている。詳しい情報はテレビモニターを参照。